

2017年を振り返って 大井としひろ議員の議会活動報告

2017年2月議会／2017.2.24 一般会計予算

神戸市会本会議一般会計予算等についての代表質疑が行われ、会派を代表して久元市長以下執行部に対し、以下4点について質疑を行いました。

- 認知症の人にやさしいまちづくりについて
- 介護離職について
- 人口減少社会に対応したニュータウンの再生について
- 放課後子ども総合プランの充実・推進について
(以下、質疑要旨です。)

認知症の人にやさしいまちづくりについて

Q 大井としひろ議員

市独自の認知症の対策の新たな試みや、認知症になんでも住み慣れた地域で安心して過ごすことができる認知症の人にやさしいまちづくりをどのように推進していくのか、また認知症対策の理念や考えを伺いたい。

**A 久元市長**

認知症対策について、これまで本市では認知症への理解を深めるための認知症サポーターの養成、認知症初期集中支援チームや認知症疾患医療センターの体制整備などに取り組んできた。また、WHO神戸センターや神戸大学等と連携した認知症の早期発見・早期介入プログラムの研究、認知症高齢者が起こした事故に対する救済制度の検討など、新たな認知症対策の取り組みを推進している。

それに加え、認知症に関する条例の制定についても検討を開始した。本市の認知症高齢者数は、平成27年度末時点で約4万4千人と介護認定者の半数を超えており、また、85歳以上の約40%が認知症に罹るというデータもある。このことから、認知症は特別な病気ではなく、老化に伴い誰もがなりうるものだという認識が重要である。

このため、「認知症の人の意思が尊重され、地域の力を豊かにすることによって、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができるまちづくりを目指す」ことを基本理念として掲げた条例の制定が適当ではないかと検討をはじめたところである。

条例の制定に向けては、この理念を市民の皆さんと共有するとともに、その理念を具体化するために個々の取り組みをより明確化することが重要であると考えている。このため、医療や介護関係者、支援団体、学識経験者などで構成する有識者会議を3月中に設置し、基本的な考え方や施策の方向性を検討していく。

議会の場においても、論議いただき、その意見を伺いながら、29年度中に条例案を提案し、審議させていただきたいと考えている。

2017年2月議会／2017.2.24 代表質疑

阪急神戸線と神戸市営地下鉄との相互直通運転について

Q 大井としひろ議員

西神地域や須磨ニュータウンへの人口流入を促進するためには、神戸市営地下鉄西神山手線について、阪神・阪急・近鉄等と連携した大阪圏からの交通アクセスの利便性向上が不可欠と考える。市営地下鉄と私鉄との相互直通運転について、市長の考えを伺いたい。

また、西神地域や須磨ニュータウンが相互直通運転で繋がり阪急沿線となれば、イメージもアップし、若者を中心に大阪圏の人たちも移り住んでいただけるのではないかと考えるが、見解を伺いたい。

**A 久元市長**

阪急神戸線と神戸市営地下鉄との相互直通運転の検討については、平成26年度から阪急電鉄との勉強会を行ってきた。率直に言うと、莫大な事業費がかかり、技術的に可能かどうかも十分には解明できおらず、簡単なものではない。

しかし、ご指摘のように相直が実現すれば、西神山手線の利便性を高めることになり、西神山手線沿線への人口定住を促進する観点からも意義があると考えている。

今後は、既存の鉄道網も含めたネットワークのあり方や、旅客動向の変動、技術的な課題の検証、あるいは費用対効果など、様々な観点から検討を深めていきたいと考えている。

Q 要望・大井としひろ議員

三宮で相互直通運転を行うと莫大な費用がかかると思うが、山陽電鉄と地下鉄の軸間が50cm程度しか離れていない場所もある。

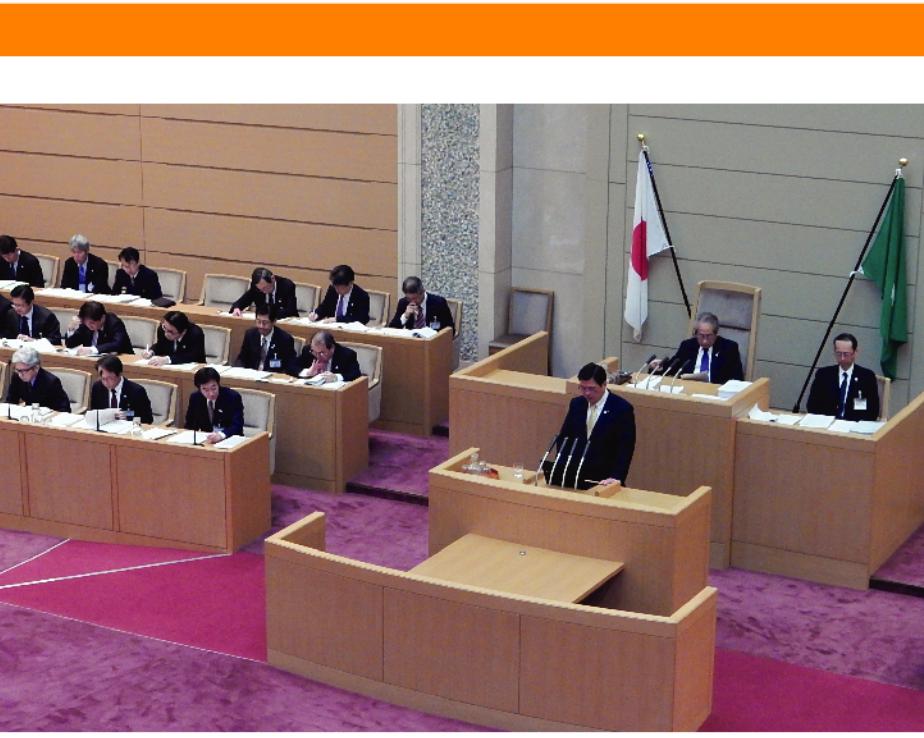
若者に選ばれるまちを目指すとともに、高齢者や現役世代、若い世帯や子供たち、障害のあるみなさん、誰もが住みたいニュータウンに再生していただきたい。



放課後子ども総合プランの充実・推進について

Q 大井としひろ議員

すべての神戸っ子が、安全・安心に放課後を過ごすために「放課後子ども総合プラン」を充実させることは重要である。本市においても、週5日間、全校生を対象に学校園を使った「神戸っ子のびのびひろば」と学童保育の交流を推進し、「放課後子ども総合プラン」を充実・実現することが、「よく学びよく遊ぶ」子供たちにとって理想的な環境を提供することにつながると考えるが、見解を伺いたい。

**A 玉田副市長**

国は、すべての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、平成26年7月に「放課後子ども総合プラン」を策定した。

本市では、地域ボランティアの協力を得て、すべての児童を対象に、放課後等の小学校の図書室や多目的室、運動場などを活用した「放課後子供教室(神戸っ子のびのびひろば)」を週1~2回実施している。

放課後子供教室は、児童が学びや読書、遊びといった自主的な活動ができる安全・安心な居場所づくりとして現在132校で実施している。

また、放課後子供教室の実施日数を拡大するため、学童保育の運営主体が雇用した指導員を配置し、学童保育と放課後子供教室と一緒に運営するモデル事業に取り組んでおり、現在13校で実施している。

しかしながら、実施日数を週5日あるいは6日に拡大するにあたり、人材や学校内での実施場所の確保が大きな課題となっている。

これは、全国的な課題であり、多くの自治体で取り組みが進んでいないことから、国は、地域の実状に合わせ、実施日数にかかわらず学童保育の児童と放課後子供教室の児童が一緒に活動できるような交流を重視する方針を示しているところである。

確かに、東京都特別区や大阪市などにおいて、放課後子供教室が充実していることは承知している。

すべての児童が安全・安心に放課後を過ごせるよう、放課後子ども総合プランを推進していくことは重要であると考えている。



2017年2月議会／2017.3.2 予算特別委員会・建設局関係

須磨多聞線の整備について

Q 大井としひろ議員

道路はネットワークで整備していくものと理解している。そのネットワークの一環として須磨多聞線の完成を待ちわびている方がいる。学園都市や小束山付近の渋滞を緩和するにはどうしたらいののか、須磨多聞線が東西に走ることで渋滞も緩和される。もっと広い範囲で説明や議論をする必要があるのではないか。見解を伺いたい。

**A 末永建設局長**

全体の計画約7kmのうち、これまで約4.6kmが完成している。一部、多井畠周辺1.9kmについては、UR(都市再生機構)が事業用地を取得していたが、土地譲渡者に譲り渡そうとしている現状である。整備を進めて行きたい。

2017年2月議会／2017.3.6 予算特別委員会・保健福祉関係

介護現場における障がい者雇用の促進について

Q 大井としひろ議員

我が会派では、予算要望に際し「障がい者就労の新しいスタイルを求めて」と題し、提言書をまとめ市長に提言要望した。平成29年度の予算における「介護現場における障がい者雇用」について、具体的な内容を伺いたい。

**A 三木保健福祉局長**

貴会派より「障がい者就労の新しいスタイルを求めて」と題した5項目の提言書を頂き、参考にさせていただいている。障がい者が介護現場で働くための準備を進め、介護事業所での就労における課題の確認や知的障がいのある方を中心に介護現場で働くための必要なスキルの把握を行うとともに、既に研修を実施している兵庫県とも連携しながら研修プログラムの検討を行うなど、介護技能の習得を目指した取り組みを進め参りたい。なお、個々の障がい特性から長時間働くことが困難な精神障がい者や発達障害者については、東京大学先端科学技術研究センター



と共に、短時間雇用創出プロジェクトを進め、介護事業所での短時間雇用の受け入れについても取り組んで参りたい。